

神戸大学医学部附属病院

肝胆膵外科

指導担当医（役職）

津川 大介（特命講師）

実習概要

概要

肝胆膵外科の主治医団の一員として4週間過ごします。オーダー（投薬）は行いませんが、それ以外はほぼ初期研修医と同様に行動します。学生1人当たり患者さんを2～3人担当し、主治医団の回診、手術、術前後のICや検査にも同行し、治療計画を立案します。カンファレンスでは研修医とともに症例のプレゼンをしてもらいます。

医療面接

毎日、午前中に1回は必ず担当患者さんを訪室し（基本主治医団と合同で回診）、医療面接と身体診察を行います。

外来患者さんに関しても、希望があれば初診外来で問診を行ってもらいます。

身体診察

担当患者さんを毎日診察します。特に、術前の腹部所見・手術既往の確認から、術後の腹部診察まで一連の流れを理解してもらうよう指導します。術後の血液検査、レントゲン情報、ドレーン情報などから術後経過を理解できるよう指導します。

腹腔鏡用のDry boxを用いて、腹腔鏡結紮縫合について指導します。

カルテ記載

毎日、学生カルテに記載を行います。指導医が記載内容をチェックし指導します。

症例プレゼンテーション

毎週月曜日朝のカンファレンスで担当患者さんについてプレゼンします。

その他（特色など）

肝移植・膵移植を経験したい希望者には、該当手術がある場合に個別対応します。

肝胆膵疾患により深く興味がある希望者には、基本的に可能な限り個人の要望に応じます。

学生へのメッセージ

臨床実習2では、より実臨床に即した経験をしてもらいます。担当患者さんの手術にも実際に入って、術後経過を主治医と一緒に学びましょう。実際に患者さんを担当する事で、手術の醍醐味をより深く味わえると思います。一緒に頑張りましょう。